

音楽表現技術の学び（I）

—音楽（声楽）受講生の現状と課題—

久世 安俊

Learn of musical expression skills (I)

—Music (vocal) current situation and problems of students—

Yasutoshi Kuse

Abstract

This paper conducted a survey about the efforts in the "Music (vocal music)," the author is responsible for, and awareness of students to the music in the child care field, to be well-known that the whether current situation are getting what you learn from efforts in the classroom for the purpose.

Key words: Musical expression skills, Singing, Children's song,

はじめに

筆者はオペラ歌手として、また指導者として常に心掛けていることがある。それは「対象が在る」ということである。聴衆がいるから演奏し届けることが出来る。学生がいるからこそ伝えさせたいと思う。保育養成校の学生も同様に、子どもたちの存在が大きな衝動を生んでくれる。この相手に向けてのベクトルは表現において必要不可欠であると考える。そこに生じるコミュニケーションのツールとして音楽表現を追求し続けている。

毎期、授業評価調査を実施はしているが、今回、より詳細な内容で学生たちへのアンケートを実施し「音楽（声楽）」で何を学び、保育における音楽表現をどのように捉えているのか注目する。この研究ノートから今後の課題を抽出したい。

科目概要

本学で「音楽（声楽）」は1年次開講される通年科目であり、保育士資格、幼稚園教諭免許状取得には必修の科目である。この授業では歌唱をメインに、「子どもに歌い聞かせうるための声楽の基礎を学ぶとともに、コミュニケーション手段である声についてのイメージを持たせる。また基礎的な音楽理論を習得し、子どもの歌のレパートリーを増やし、弾き歌いの基礎技術を身に付ける」ことを目標とし、以下の内容で構成している。

項目	時期	内 容
発声と歌唱	通年	発声は毎回の授業開始に行っている。テキスト『ポケットいっぱいのうた』(教育芸術社) から季節や行事などテーマを決め、毎回 4~5 曲を齊唱する。他、テキストに含まれない新曲など、その都度楽譜を配布する。
楽典	前期	読譜に当たっての基礎的な理論を学ぶ。 項目に沿った資料を準備し配布する。
コーリューブンゲン* 独唱	前期	ア・カペラで音名（ド・レ・ミ…）で歌う課題である。ハ長調の曲から選曲した 7 曲を提示する。各々、練習して暗譜で歌えるようになったら筆者のもとへ独唱に来る。音程、リズムが異なればアドバイスし、再度練習というルーティーンで課題をクリアしていく。前期終了までの約 1 ヶ月の期間で実施する。
二人一組での 独唱発表	前期	「きのこ」(作詞／まど・みちお 作曲／くらかけ昭二) を課題曲とし、各々ピアノ伴奏と独唱とを担当。クラスのメンバーの前で演奏する。
弾き歌い	後期	実習曲（課題曲）、季節の曲、お気に入りの曲と選曲し、弾き歌いを行う。
音楽劇あそび	後期	音楽劇のグループ発表を行う。全発表をビデオで撮り、次の時間に鑑賞。表現についてのディスカッションを行う。発表に際し考慮した点や、発表までの活動計画なども提出させる。
合唱	後期	2 月上旬に開催される総合発表会における音楽会での学年合唱を目指し、練習を行う。

* コーリューブンゲン…フランツ・ヴュルナー『ミュンヘン音楽学校合唱練習書』

アンケート

・調査対象

平成 28 年度前期を受講した保育科 1 年生 61 名を対象に無記名で調査を行った。
欠席者を対象から外した人数である。

・調査実施日

音楽（声楽）の授業時間内：平成 28 年 10 月 17 日 3 限目と 5 限目で実施した。

・調査項目

前期授業での「実技」に関する取り組みに関する 5 項目とした。

1. 歌唱（歌うこと）は好きですか？
2. 子どもの歌の齊唱について
3. コーリューブンゲンについて
4. 二人一組による歌唱とピアノ発表について、また感想（自由記述）
5. 音楽（声楽）での取り組みで学んだことを教えてください。また、保育・教育現場でそのように活かしたいと考えますか？

結果と考察

1. 歌唱（歌うこと）は好きですか？

大好き	好き	嫌い	大嫌い
24 人 : 39%	28 人 : 46%	8 人 : 13%	1 人 : 2%

(% : 小数点第 2 位を四捨五入)

1-1. 〈大好き・好き〉と答えた理由（要約）

- ・嫌なことがあっても忘れる。ストレス解消になる。
- ・みんなと一緒に歌うことが楽しいから。
- ・人前で歌うのは苦手だが、楽しいから好き。
- ・自分を表現できる。
- ・音楽を聞くことが（歌うことが）小さいころから好きだから。
- ・歌を歌っている時が一番自信を持って楽しい。
- ・上手く歌えると嬉しい。
- ・音痴なのでちょっと躊躇うが、気分が明るくなる。

1-2. 〈嫌い・大嫌い〉と答えた理由（要約）

- ・音痴だから。
- ・人前が苦手で、大きな声が出せない。
- ・得意ではない。
- ・声が出ない。
- ・眠くなる。

85%の学生が歌うことが好きと回答している。「楽しい」「ストレス解消になる」といった理由が大半を占めている。保育養成校の学生であれば 100%に近い割合で好きであると回答が出ると思っていた。嫌いな理由としては大半が「音痴だから」という回答である。検討事項の一つと考える。

2. 子どもの歌の斉唱について

満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満足	不満足
29人（4人） 48%	32人（5人） 52%	0人：0%	0人：0%

*（ ）は歌唱が嫌い・大嫌いな学生

2-1. 〈満足・どちらかといえば満足〉と答えた理由（要約）

	理由
満足	<ul style="list-style-type: none"> 自分が聴いたことのない曲がたくさんあって面白い。満足。 懐かしい歌、初めて聴く歌、季節など合わせて歌を選んでくれているので楽しい。 子どもの頃を思い出すから。 実習で子どもたちにいろいろな歌を教えられる。 （みんなと楽しく歌え、自分の好きな曲も見つけることができた。） （多くの曲を学ぶことができる。）
どちらかといえば満足	<ul style="list-style-type: none"> 歌はかわいいが、裏声になってしまふ。 自身の課題がよくわかる。 一曲に集中して時間をかけたかったから。 将来に向けてや、昔のことを思い出せたりする。 実習で役に立つから。現場で使えそう。 （みんなで歌ったから。） （保育園での歌を思い出せた。）

全員が満足してくれているという回答である。子どもの歌のレパートリーを増やすことを目的としていることからも有効であると言えるだろう。一方、〈どちらかといえば満足〉の回答には「裏声になる」「一曲に時間をかけてほしい」という発声や作品解釈にもう少し時間を費やしてほしいという学生もいる事が伺える。着目は、歌唱が嫌いな15%の学生も（内4人が〈満足〉、5人が〈どちらかといえば満足〉）この取り組みについては手応えを感じているという事である。下線を付けた部分は歌唱が嫌いな学生からの理由である。「多くの曲を知ることが出来る」「保育園での歌を思い出した」と保育者への意識が伺える。また、「みんなと歌える」ということが音痴という意識を和らげてくれるものだと考えられる。

3. コーリューブンゲンについて

満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満足	不満足
11人 18%	24人(2人) 39%	23人(17人) 38%	3人(2人) 5%

* () は歌唱が嫌い・() は歌唱が大好き・好きな学生

3-1 〈満足・どちらかといえば満足〉と答えた理由（要約）

- ・音符がよく理解できた。
- ・音名だけでなく、音程やリズムに着目して歌うことができた。
- ・正しい音程、リズムは大事だから。
- ・リズム感が身に付くから。
- ・もっと早くに知りたかった。
- ・ゲーム感覚で楽しかった。
- ・音感がよくなつた感じがする。
- ・歌えた時の達成感がある。
- ・少し難しかった
- ・努力することを学べた。
- ・全部合格できたから。
- ・自身のやる気が感じられた。
- ・恥ずかしさでしたくないとも思っていたが、自分の実状を知ることができた。
- ・音痴が治るから。声の出し方を先生が教えてくれて良かった。
- ・(苦手だったが、アドバイスを貰えてためになった。)
- ・(自身の能力を知ることができた。)

3-2. 〈どちらかといえば不満足・不満足〉と答えた理由（要約）

- ・難しかった。
- ・声が出せなかつた。練習不足。
- ・地声と歌声を切り替えてしまう。
- ・もう少し、テストを受けに行けばよかつた。
- ・2問しかクリアできなかつたから。
- ・保育現場では使わない。
- ・ア・カペラは苦手。いい声が出ない。
- ・人前で歌うのが嫌い。覚えるのが苦労。
- ・音符が読めないから。

子どもの歌の齊唱とは大きく異なり、〈満足・どちらかといえば満足〉57%、〈どちらかといえば不満足・不満足〉43%という回答であった。コーリューブンゲンを扱うことで、リズムがすぐに理解できるなど楽典からの視点もとても重要と考えるが、筆者は主として、歌唱するにあたっての音程感覚を身に付けさせることを目的としていた。また、一人で歌いに来るという形態をとることで度胸を付ける機会になることも望んでいる。声についての理由は乏しいが、リズムや正確な音程への着目について、また形態についても「ゲーム感覚」という捉え方で臨んでもらえたことからも効果的なやり方だといえるだろう。

3-1. 〈どちらかといえば満足〉の回答者には歌が嫌いな学生が2人含まれている。理由は下線部のように「アドバイスをもらえたから」「自身の能力を知った」と、得るものがあることがプラスのイメージへと導いてくれたものと考える。逆に、歌唱が好きな学生のうち19人においては〈どちらかというと不満足・不満足〉と回答し、練習不足や課題の全てをクリアできなかったとする、達成できなかったことへの不満が伺える。また「人前で歌うのが嫌い」「保育現場では使わない」という理由については、アプローチの方法を検討する必要性を感じた。

4. 二人一組による歌唱とピアノ発表について

満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満足	不満足
18人	23人(4人)	17人(13人)	3人(2人)
30%	38%	28%	5%

* () は歌唱が嫌いな学生、(()) は歌唱が大好き・好きな学生

4-1. 〈満足・どちらかといえば満足〉と答えた理由（要約）

- ・自分のことだけでなく、相手のためにも頑張ることができた。
- ・ピアノが苦手な自分に合わせてくれた。ピアノも覚えられた。
- ・アドバイスしあって練習することができた。
- ・一人の発表より安心できた。
- ・いい経験だ。
- ・もう少し早く練習に取り組めば、もっと良い発表にできたのでは。
- ・度胸をつける機会になって満足。
- ・現場では毎日やっていかなければならないと思うから。
- ・(二人での発表ということで、緊張が和らいだ。)
- ・(楽しくやれた。)
- ・(自分だけだと「この程度で」と思ってしまうこともあるが、相手が居ることでしっかり練習し、結果的に自分の力につながった。)

4-2. <どちらかといえば不満足・不満足>と答えた理由（要約）

- ・ピアノが苦手で苦しかった。
- ・もっと早くから取り組めばよかったと反省している。
- ・準備不足。
- ・緊張あまり声が出なかつた。
- ・足を引っ張ってしまった。
- ・一人で歌うのは無理。
- ・自分の練習不足で、相手に迷惑をかけてしまった。
- ・練習ではできていたのに、失敗してしまつた。
- ・ピアノが全く弾けない。音痴で恥ずかしい。

4-3. 発表してみての感想、反省点など（自由記述）

- ・相手に配慮して演奏することができて良い経験だった。
- ・緊張で震えた。もっと練習して余裕が少し出来れば良かった。
- ・緊張で手が震えたが、最後まで弾けて良かった。
- ・緊張しないだけの練習が必要だ。
- ・いくら練習しても緊張はあるものだ。
- ・練習の成果が緊張で出せない。それだけ、まだ練習が足りなかつたのだろう。
- ・恥ずかしかつたが、とても楽しむことができた。
- ・もっと練習が必要だ。人前となると…。まだまだだと思った。
- ・アンサンブルの楽しさが分かつた。
- ・本番で発揮できない。
- ・子どもたちの前では、今以上に緊張すると思うので、もっと頑張らなければ。
- ・恥ずかしさもあったが、歌いだすととても上手くできた。
- ・相手に合わせてピアノが弾けて良かった。
- ・緊張をどうにかしたい。この緊張感に慣れたい。
- ・早め早めに取り組めばよかったと反省している。
- ・恥ずかしい気持ちが強いが、慣れていかなければいけないと思った。
- ・頭が真っ白になる。
- ・もっと声が出せるようになりたい。
- ・もっと時間をかけければよかった。
- ・もっと自信のある発表をしたかった。
- ・人前で歌えるよう克服して行きたい。
- ・とても厳しかつたが、いい経験になつた。

この取り組みについては、個人プレイではなく相手が存在すること、つまり現場では子どもたちを相手に演奏をするという意識を育みたいと行っている。ただ突っ立って歌うや自分のペースでピアノを弾くではなく、相手へどう伝えたいか、どうすることで歌いやすいかというアンサンブル面を重要視している。これについては約70%の学生が、概ね「楽しめた」「相手のために頑張ることが出来た」という満足を得てくれている。歌唱が嫌いな学生（4人）も同様に楽しめたこと、またしっかりと練習ができ自分の力もついたと好感触を得てくれている。反対に不満足の理由としては「練習不足であった」「相手の足を引っ張ってしまった」という消化不良的一面が伺える。また、4-2で多かったのが「ピアノが弾けない」「練習では弾けていたのに、本番では失敗してしまった」というピアノ演奏に関する理由であった。最も学生の負担となっている一面であるといえる。

発表についての感想、反省点も記述してもらった。緊張することは否めないことである。逆に緊張がない演奏や活動というものは危険だと考える。適度な緊張で演奏するには、どれだけ練習に時間をかけたか、また経験数でしかないと言ってよい。学生が良く口にする「練習では出来たのに」を減らしていくには、発表の場を多く与える必要があるのだと感じた。

5. 音楽（声楽）での取り組みで学んだことを教えてください。また、保育・教育現場でそのように活かしたいと考えますか？

- ・子ども中心で考えること。
- ・弾き歌いを出来るようになりたい。弾き歌いの難しさ。
- ・シーンごとに歌は役に立つと思った。
- ・たくさんの歌を教えてあげたい。
- ・努力することを学んだ。
- ・間違えても止まらないピアノ。もっとピアノがうまくなりたい。
- ・大きな声で歌えるようになりたい。
- ・人前で何かをするときの心情。
- ・まずは自分が大きな声を出して気持ちよく歌うことが大切。
- ・練習が大切。
- ・全身を使って表現することが大事である。
- ・どの季節に、どの歌を歌うという事を学んだ。
- ・緊張感は大切。
- ・完璧ではなくとも、一生懸命に表現すればいいのだと思った。堂々と子どもたちの前に立ちたい。
- ・自信を持てるだけの時間をかけたい。
- ・人前での発表にも慣れていくたい。
- ・苦手なりにアレンジすること。

- ・多くの歌を知るためにも、楽典もしっかりと頑張っていきたい。
- ・音痴とか関係なしに楽しく、大きな声で歌う。
- ・上手く弾くことよりも、楽しむことが大事。
- ・自分中心ではなく、子どもが楽しくなるような音楽をしたい。
- ・声の重要性。
- ・歌うことの楽しさを学んだ。
- ・たくさんの歌を教えてあげたい。

おわりにー今後の展望

今回、「音楽(声楽)」において学生たちが何を学び、どういう意識を持って取り組んでいるのかを見ていった。保育者を目指すものとして、子どもの歌の齊唱やお互いに支え合いながらの演奏発表と、多くの学生が楽しさを感じながら取り組んでくれていることが伺えた。項目5. この学びを現場でどのように活かしたいかの問い合わせに対しても、彼らなりの心の引っ掛けたりや力不足の部分をしっかりと受け止め、今後の意欲を覗かせてくれている。

全体的に羞恥心や達成感といった感情論が主となってしまっていることは否めない。大切なのはこれだけの意欲を、どのように具体化し子どもたちへ提供していくのかということである。特に歌唱が嫌いな学生や音楽活動に満足できなかった学生に対する指導法の開拓が必要だと言える。

今後も引き続き、後期の実技内容についての学生の学びについて調査していく所存である。更には、二年次開講する「劇あそび（指導法）」の活動と発表に至る過程を追い続け、学生たちの変化とそこに伴う保育者養成校における音楽表現のあり方を追求していきたいと考える。

